

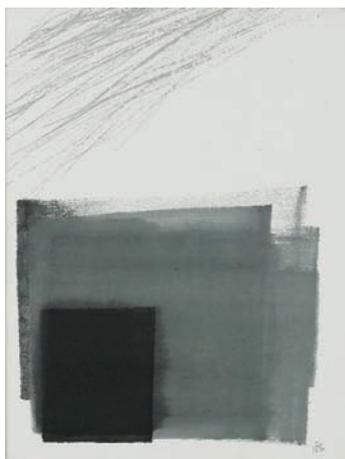
# 篠田桃紅美術空間からの お知らせ

10月6日(火)～12月27日(日)

「空間へのおもい イサム・ノグチ」AKARU」とともに

篠田桃紅にとって、1956年から約2年間のニューヨーク滞在は、アメリカの自由でエネルギー溢る熱気のなかで、既成の私たちを打ち破り独自の新しい「私たち」を確信した何よりも重要な意味をもつものでした。しかしそれ以上に、異国で自分の表現にとって墨と和紙が必然的なものであると強く意識した桃紅は、帰国後、欧米の新しい感覚に触れることにより、日本の伝統的な余白の美しさといった、東洋的精神性が画面にあふれる無限の時間と空間を作り上げていきます。

イサム・ノグチは日系2世のアメリカ人



図版掲載「秋」2001年 60×45cm

※9月28日(月)～10月5日(月)の間、展示作品入れ替え作業のため、臨時休館します。

- 入館料…高校生以上300円・中学生以下無料
- 休館日…月曜日(休日を除く)、および祝日の翌日(土・日・休日を除く)
- 開館時間…午前9時～午後4時30分
- 照会先…篠田桃紅美術空間 (☎23-7756)

で、アメリカを代表する現代彫刻家です。イサム・ノグチもまた、和紙を透してやわらかく輝く岐阜ちようちんに出会うことで、日本の伝統的な美しさに惹かれ、たびたび岐阜を訪れ35年にわたって光の彫刻「あかり」のデザインを手がけました。「和」の素材を使い、抽象と彫刻という「洋」の思考、フォルムを使い空間を構築していった桃紅とイサム・ノグチ。本展では、洋の東西を越え、豊かな空間を作り出すイサム・ノグチの「あかり」作品とともに桃紅水墨の新たな魅力を紹介します。

ひとひと  
女と男

## ともに自分らしく生きよう vol. 63

### 「さんかくの木」

男女共同参画社会

このコーナーでは、葉に書かれた内容をさんかくサポーターが紹介していきます。

**「お父さん！子育てようやく一段落。2人一緒には終えられない人生。自分の1日を自分で計画し、実行し、反省し、それぞれを大切にしながら生きていきましょう。」**

子育て中は、子ども中心の生活を送っている夫婦が多いことでしょう。子どもは成長し、親離れの時期を迎え巣立っていきます。そんなとき母親が子離れできなくて、時間はできても何をしてよいかわからず寂しさのあまりアルコールに依存してキッチンドリンクになったという話を耳にしたことがあります。また、子育てを妻にまかせ仕事人間として生活してきた男性が、定年退職後何をしてよいかわからず、妻にまわりつく「濡れ落ち葉」という言葉も一時流行しました。そしてそんな夫との生活は耐えられないということで離婚する「熟年離婚」も近年増えてきました。どちらの場合も「男は仕事、女は家庭」という昔ながらの考え方で家庭生活を分担してきた結果でしょう。ライフステージによって子育てに時間をかけたか、仕事に時間を費やしたりとさまざまですが、その期間にもそれが終わった後の自分の生き方を考え、準備しておきましょう。例えば、趣味を持つとか、多くの友人を作っておくことも重要なことでしょう。夫婦といえども個々の人間ですので、考え方も趣味も全く同じではありません。一度きりの人生、自分で計画し納得のいく人生を送りたいものです。

さんかくサポーター＜H＞



◀ わかくさプラザ「学習情報館2階」男女共同参画「コーナー」でご覧になれます。

＜照会先＞さんかくサポーター事務局 (企画政策課内) ☎23-6876